

1 次の $u = u(x, t)$ に対する熱方程式の初期値–境界値問題を考える.

$$\begin{cases} u_t = u_{xx} + f(x, t) & x > 0, t > 0, \\ u = \varphi(t) & x = 0, t > 0, \\ u = u_0(x) & x > 0, t = 0. \end{cases}$$

ただし, $f \in C^\infty([0, \infty) \times [0, \infty))$, $\varphi, u_0 \in C^\infty([0, \infty))$ とする. このとき, 以下の問いに答えよ.

- (1) この初期値–境界値問題の解 u で $u \in C^0([0, \infty) \times [0, \infty))$ を満たすもの (i.e., $x = 0, t = 0$ まで込めて連続である解) が存在するための必要条件を求められるだけ求めなさい.
- (2) この初期値–境界値問題の解 u で $u \in C^2([0, \infty) \times [0, \infty))$ を満たすもの (i.e., $x = 0, t = 0$ まで込めて u およびその 1 階と 2 階の偏導関数が全て連続である解) が存在するための必要条件を求められるだけ求めなさい.
- (3) この初期値–境界値問題の解 u で $u \in C^\infty([0, \infty) \times [0, \infty))$ を満たすもの (i.e., $x = 0, t = 0$ まで込めて u およびその全ての偏導関数が連続である解) が存在するための必要条件を求められるだけ求めなさい.

レポート作成上の注意

- A4 版のレポート用紙を使用し, 表紙を付けること. 表紙には科目名, レポート番号, 学籍番号, 氏名を記入すること. レポートの左上をホチキス留めすること.
- 最終的な答えだけでなく, 途中計算を分かりやすく説明すること.
- ワードプロ, TeX 等は使用せず, 手書きで (丁寧な字で) 作成すること.
- レポートは次回の講義終了後に回収する.

関数方程式概論のHPのURL

http://www.math.keio.ac.jp/~iguchi/Lectures/FE_2016.html